

子どもたちの夢と歩んだ三十六年間

## 中島子供の国

中島公園の中にあつた遊園地「中島子供の国」について紹介します。

都市公園の中の遊園地としては、当時日本で唯一であつた、「中島子供の国」。誕生のきっかけは、昭和三十三年に開催された「北海道大博覧会」です。中島公園内の会場には、観覧車などがある「子供の国」、お城がある「おとぎの国」、大きな恐竜の模型がある「古代生物園」が設けられ、多くの子どもたちでにぎわいました。この遊戯施設を博覧会の終了後に、(株)札幌振興公社が引き継いでオープンしたのが、「中島子供の国」の始まりです。

園内の遊具も、最初は八種類。中でも「宙返りロケット」や公園内の池の中に船が滑り落ちる、「ウォーターシュート」が人気でした。

その後、四十九年には、全ての遊具を更新する大改修を行い、「ポプスター」(小型ジェットコースター)を導入。そして五十七年には、道内初の宙返り

ジェットコースター「ループ&コーク」が登場し、一時間半もの順番待ちの列ができるほどの大人気でした。

この子どもたちに夢を与えてきた「中島子供の国」は、平成六年のゴールデンウィークの営業をもって、中島公園での三十六年間の歴史に幕を降ろし、円山動物園内に移転しました。跡地には、札幌コンサートホール Kitara が建てられています。

(平成六年四月号・第十回)



公園の池に勢い良く飛び込む  
ウォーターシュート (昭和33年)